

試聴会・訪問記掲載

河口無線ハイファイディリティ試聴会報告(2017.1.14)

パスラボラトリー (PASS) のフラッグシップリファレンスシリーズのフォノイコライザーアンプ「XS-PHONO」を中心とした、「PASS でアナログレコードを聴く」という試聴会に行ってきました。

日時：1月14日(土) PM1:15~PM3:00

会場：3F ハイファイディリティ試聴室

<使用予定機材>



PASS フォノイコライザーアンプ XS-PHONO ¥6,048,000



PASS プリアンプ XP-10 ¥864,000



PASS モノラルパワーアンプ XA-100.8 ¥2,808,000 (ペア)



STST ダイレクトドライブプレーヤー MOTUS II DQ (アーム込)

¥1,695,600



B&W スピーカーシステム 802D3 ¥3,672,000 (ペア)



当日のセッティング

<試聴の経過>

「PASS でアナログレコードを聴く」試聴会という触れ込みで [XS-PHONO](#) は 600 万円もする超弩級のフォノイコライザーですので、一体どのような音がするのか、興味がありました。PASS の機器の説明はほとんどありませんでした。XS-PHONO の詳細はネット上の情報を参照することとします。

エレクトリが EMT の変遷および EMT の製品を取り扱ってきた経過や最近の EMT のカートリッジについては簡単な説明がありました。また、STST の [MOTUS II DQ](#) の仕様については詳しい説明があり、EMT のプレイヤーの現行製品がなくなったので、当初はデモ用に使用する目的で取扱いを始めたという経過の説明がありました。

試聴は、EMT 製品の紹介と STST の製品の紹介を交えながら、アナログ盤を聴いていきました。使用したカートリッジは比較的新しい製品の [EMT JSD6G](#) でした。

最初はジャズの限定盤、次は女性ボーカル、ついで NY フィルのナット・クラッカー

と続きましたが、音楽ジャンルを問わず、適度にワイドレンジで、強調感がなく、全体のバランスが良いことがすぐに分かりました。いつもは、かなり個性のある音がする 802D3 がごく自然な鳴り方をすることに驚かされました。

引き続いて、カウントペーシー、女性ボーカル、ハリー・ベラフォンテなどがかかりましたが、印象は極めて安定しており、何を聴いても安心感があります。

さらに、モーツアルトのフルート協奏曲、カンターテドミノ、ジャズと続きましたが、モーツアルトは倍音が滑らかに聴けましたし、カンターテドミノの合唱も濁らず、ジャズの音の立ち上がりも強調感がなく、自然な感じでした。

上記の印象は、PASS のアンプの駆動力、ダイレクトドライブでありながら、柔らかめの音がするという STST のプレイヤー、高額な PASS のフォノイコ、EMT のカートリッジの総合効果と思われれます。現在も EMT の XSD-15 を使用している関係上、JSD6G に関心がありましたが、昔の EMT の艶のある味わいを残しながら、ワイドレンジにしたような音で好感が持てました。このような最新の EMT のカートリッジは導入対象の候補として考えておく必要がありそうです。